

【授業の到達目標および概要】**授業のテーマ及び到達目標：**

本授業の目標は、社会調査における質的研究法を修得することである。具体的には、質的調査法に関する基本的理解を踏まえながら、調査能力と表現技法を身につけ、研究論文を作成することができるようになることを目標とする。このことは、ディプロマ・ポリシーにある「専攻分野における研究能力」を修得することと関連している。

授業の概要：

前半は質的研究の論文を批判的に読み解く。様々な質的調査法（インタビュー調査、参与観察、ライフヒストリー／ライフストーリー、エスノグラフィー、エスノメソドロジー等）に関する文献を講読し基本的知識を獲得する。後半ではそれらを踏まえ、自身の研究関心にもとづく質的調査を計画し実施する。調査結果は授業内で報告し受講者とともに議論する。

【授業計画】

- ① 質的研究への招待
現代社会において質的研究がどのように求められ、いかなる意義・特性を有するか理解する。複数の質的研究法について概観する。
キーワード：社会調査、質的研究、量的調査と質的調査
- ② 質的研究の認識論
質的研究の理論的・歴史的背景を踏まえ、どのような認識的特性を有するか理解する。
キーワード：現象学、他者理解、解釈主義
- ③ 質的研究の方法論
質的研究をどのように設計し、どのように実施するかその全体像を理解する。
キーワード：質的研究における設問、質的調査計画、研究倫理
- ④ 質的データの収集
質的調査において、どのようにデータを収集するかその方法を理解し実践する。
キーワード：インタビュー、参与観察、フィールドノート
- ⑤ 質的データの分析
質的調査において、どのようにデータを分析し解釈するかその方法を理解し実践する。
キーワード：意味解釈、コーディング、M-GTA
- ⑥ 質的研究の実践
質的データの記述について体験的に演習を重ね質的研究にもとづく論文を作成する。
キーワード：トランスクリプト、エスノグラフィー、厚い記述
- ⑦ 質的研究の報告
質的研究にもとづく論文を報告し、受講者相互のレビューを行う。
キーワード：文化研究、当事者の知、対人援助と質的研究

【授業外学習】

文献の講読を行うので、受講者は事前に指定の文献を読み込み、レジュメを作成する。授業では、そのレジュメにもとづいてディスカッションを行う。また、質的研究にもとづく論文を作成するため、授業時間外にデータの収集や分析、論文の執筆を行う。

【成績評価の方法・基準】

授業への参加態度（60%）、論文の作成（40%）

【教科書】

随時資料を配布する。

【参考書】

随時紹介する。

【教材】

随時資料を配布する。

【備考】

特になし